

第33回日本疫学会学術総会（浜松）

教育シンポジウム 社会医学系指導医講習会

若手疫学者が思い描く指導者像（概要版）

慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 原田成

疫学の未来を語る若手の会

自己紹介

- 原田 成
- 慶應義塾大学 医学部（衛生学公衆衛生学） 専任講師
- 博士（医学） 2016年
- 社会医学系指導医/上級疫学専門家
- Best teacher award 2020年度第2位、2021年度第2位

- 疫学の未来を語る若手の会 世話人（2018年～）
 - 主に若手疫学研究者によって構成されるネットワーク

- 本発表にかかる利益相反
 - 過去から現在にかけての指導者の存在

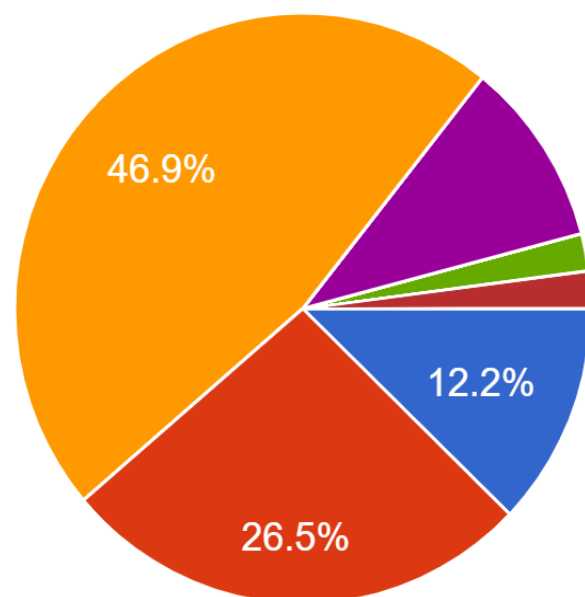
「若手疫学者が思い描く指導者像」のアンケート実施

- 「疫学の未来を語る若手の会」のメーリングリスト（登録者313名）に、今回のシンポジウムで発表するにあたり、アンケートを実施
- 想定回答対象者：広く「若手疫学研究者」として、学生から博士課程終了後15年程度
- 質問項目は、世話人間でのディスカッション内容を踏まえて、原田が作成
- 完全に匿名で実施（メールアドレス等の収集もなし）
- 所属など、個人を特定できる要素については記載しないように依頼（実際に記載なし）
- 本発表内容は、「疫学の未来を語る若手の会」としての意見・提言ではなく、若手疫学研究者の生の声を紹介し、今後の若手の指導へ役立てていただくことが趣旨
- 現状の指導について生の声を集めるとともに、若手疫学研究者が「自身がどのような指導者になりたいか/でありたいか」にもフォーカスして、前向きなメッセージも得られるような構成とした。

回答者49名の疫学研究歴：回答者は博士修了後5年以内が最多

疫学の研究歴を教えてください

49件の回答

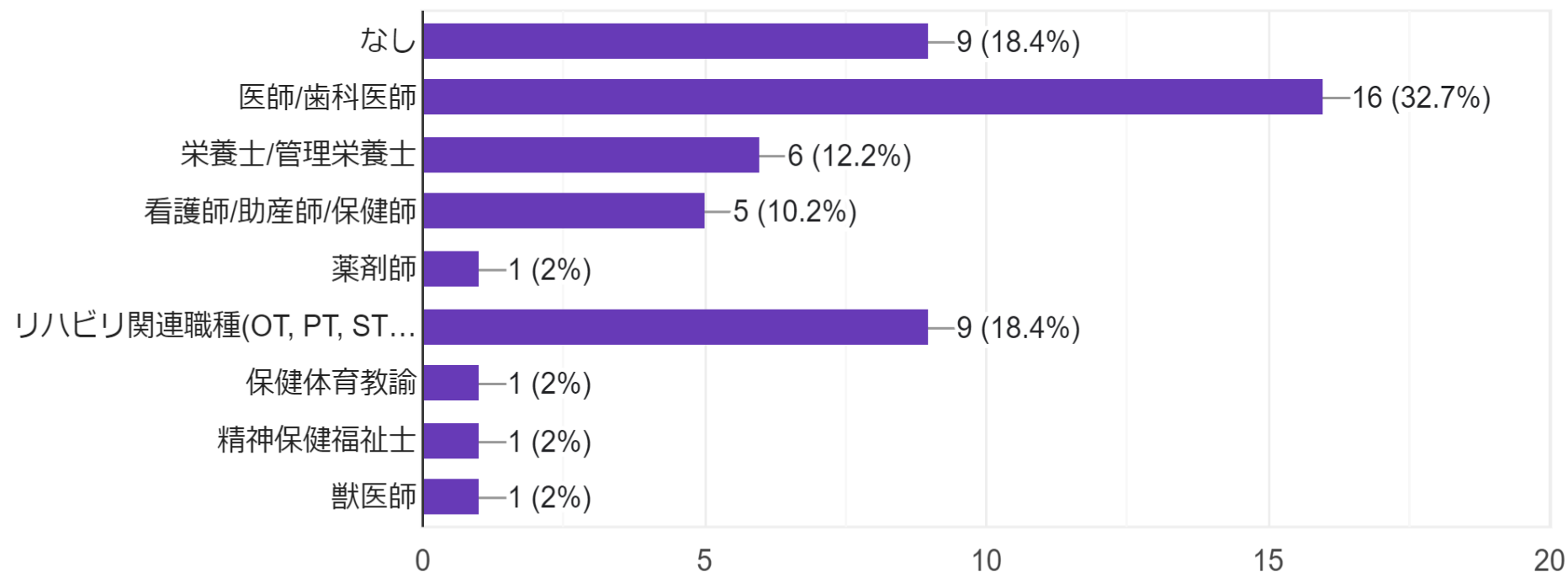


- 博士修了（修了後11-15年）
- 博士修了（修了後6-10年）
- 博士修了（修了後5年以内）
- 修士修了（博士課程に進学せずに就職等）
- 博士課程在籍中/博士取得予定
- 修士課程在籍中/修士取得予定
- 学部生
- 別分野で学位取得後に学びました。
- 社会医学系専門医

回答者49名の医療系資格：多様な属性の回答が得られた

医療系の資格の有無を教えてください

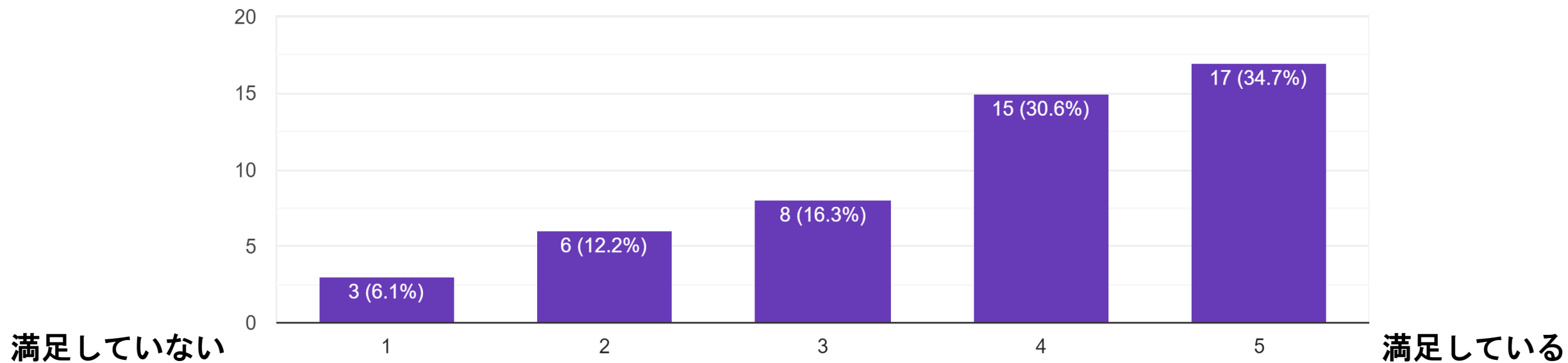
49件の回答



65%の若手研究者は指導に満足しているが、18%は満足していない

ご自身がこれまで若手疫学研究者として受けてきた指導について、満足していますか？

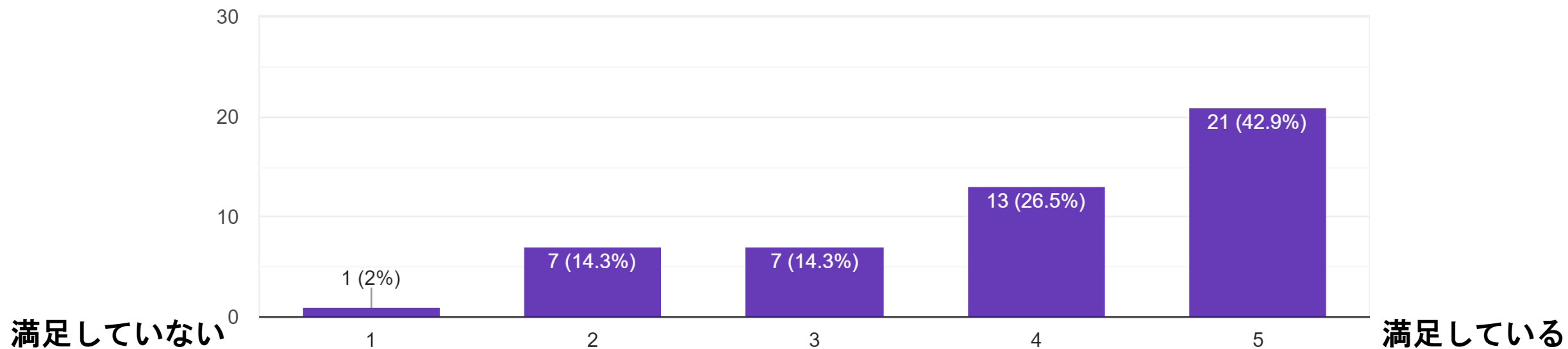
49件の回答



68%が指導者について満足しており、16%は満足していない

これまでの指導者について、満足していますか？

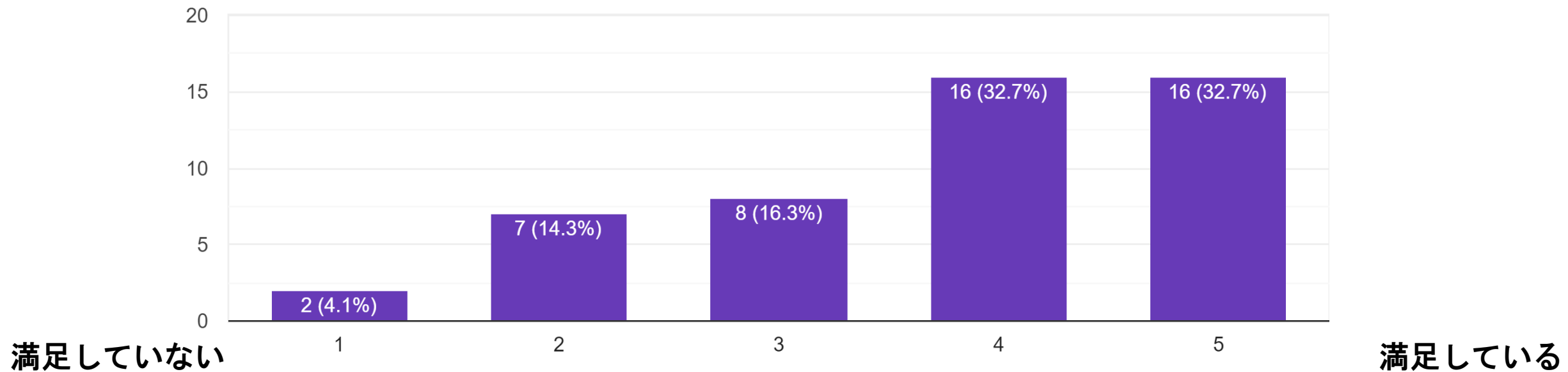
49件の回答




指導環境は、指導者についてよりも満足度がやや低めである


これまで指導を受けている/受けてきた環境について、満足していますか？

49 件の回答





**若手疫学研究者が求めている指導について
一定量の回答を中心に**



若手疫学研究者として学ぶべきと思われる各項目について（回答者：49名）

指導者から指導を受けるべき重要度と、

十分に指導者から指導を受けている（受けられた/受けられそう）かどうか

学ぶべきと思われる項目	重要度（5点満点平均値）	指導が十分か（5点満点平均値）	差分
疫学の体系的な知識	4.04	3.47	0.57
公衆衛生学の体系的な知識	3.55	3.14	0.41
統計解析の知識・方法	4.27	3.24	1.02
論文の批判的吟味の方法	4.27	3.51	0.76
研究テーマの決め方	4.02	3.24	0.78
具体的な論文執筆の方法	4.29	3.59	0.69
具体的な学会発表の方法	3.96	3.57	0.39
研究費の獲得方法	4.18	3.20	0.98
アカデミックポジションの獲得方法	4.12	2.82	1.31
研究者として必要な資質・スキルはなにか	3.98	3.10	0.88
研究者のライフコースはどんなものか	3.92	2.82	1.10
ネットワーキングの方法	3.69	2.78	0.92

博士取得後5年以下の研究者（28名）での結果

指導者から指導をうけるべき重要度と、

十分に指導者から指導を受けている（受けられた/受けられそう）かどうか

学ぶべきと思われる項目	重要度（5点満点平均値）	指導が十分か（5点満点平均値）	差分
疫学の体系的な知識	3.96	3.43	0.54
公衆衛生学の体系的な知識	3.43	3.21	0.21
統計解析の知識・方法	4.39	3.14	1.25
論文の批判的吟味の方法	4.25	3.29	0.96
研究テーマの決め方	4.00	3.21	0.79
具体的な論文執筆の方法	4.29	3.54	0.75
具体的な学会発表の方法	3.82	3.43	0.39
研究費の獲得方法	4.14	3.11	1.04
アカデミックポジションの獲得方法	4.04	2.46	1.57
研究者として必要な資質・スキルはなにか	4.00	3.04	0.96
研究者のライフコースはどんなものか	4.04	2.82	1.21
ネットワーキングの方法	3.68	2.61	1.07

博士取得後6年以上の研究者（19名）での結果

指導者から指導をうけるべき重要度と、

十分に指導者から指導を受けている（受けられた/受けられそう）かどうか

学ぶべきと思われる項目	重要度（5点満点平均値）	指導が十分か（5点満点平均値）	差分
疫学の体系的な知識	4.11	3.37	0.74
公衆衛生学の体系的な知識	3.63	2.84	0.79
統計解析の知識・方法	4.05	3.21	0.84
論文の批判的吟味の方法	4.26	3.68	0.58
研究テーマの決め方	4.05	3.21	0.84
具体的な論文執筆の方法	4.26	3.58	0.68
具体的な学会発表の方法	4.11	3.68	0.42
研究費の獲得方法	4.21	3.26	0.95
アカデミックポジションの獲得方法	4.21	3.26	0.95
研究者として必要な資質・スキルはなにか	4.05	3.16	0.89
研究者のライフコースはどんなものか	3.84	2.74	1.11
ネットワーキングの方法	3.74	2.95	0.79

自由記述：

特に指導者からの指導を受けることが重要と考える項目を教えてください。

- 「論文の執筆方法」という回答が圧倒的に多く、次いで「研究費の獲得方法」が占めた。
- 指導者の研究者としての姿勢・哲学・アイデンティティ・マインド等、定型的でない
「研究者としてのあり方」について指導を受けることが重要という回答が目立った。

指導を受けてきた中で特に優れている・十分だと感じる内容について、具体的に教えてください。

- 「論文の執筆の方法」「論文の批判的吟味」という回答が多数を占めた。
- 実際の研究プロジェクトのマネジメントやダイナミズムを一定の裁量とともに経験させてもらえることを、貴重な指導と捉えている意見が目立った。

指導を受けてきた中で特に不足している・不十分だと感じる内容について、具体的に教えてください。

- キャリアおよび、ネットワーキングに関する回答が多かった。
 - 研究者のキャリアの選択肢
 - アカデミックポジションの獲得方法
 - 研究費の獲得方法
 - ネットワーキングの方法

若手疫学研究者が求めている指導についてのまとめと考察

- 知識や方法論のように達成目標が比較的明確なハードスキルと比較して、アカデミックポジションや研究費の獲得方法や、研究者のライフコースやネットワーキングの方法のような、不定形だが研究者として独立するために重要と考えられる項目において、若手研究者の考える重要度と指導の十分さに乖離が見受けられる。
ハードスキルでは統計解析の知識・方法において乖離が大きい。
- 特に博士修了後5年以下のより若い研究者で上記の傾向が強い。修了後6年以上の研究者は、修了後5年未満の研究者と比較して、アカデミックポジションの獲得方法を十分に受けたと感じている。研究者として独立するために重要な項目についての指導を十分に行うことで、研究生活を継続できる可能性が高まることが考えられる。
- 「研究者としてのあり方」を学ぶ機会が重要と考えている若手も多く、不定形な領域の指導について着目する必要がある。
- 研究プロジェクトについて一定の裁量を与えて経験させることは貴重な指導となりうる。
- 若手研究者が習得したいことは個々に異なるため、幅広い項目に目を配りながら、指導者と若手研究者が個別にすり合わせることも重要と考えられる。



若手疫学研究者の考える指導者像 —記述的回答の紹介



ご自身の現在の/過去の指導者について、特に印象に残っている、優れた/教育的なエピソードについて教えてください。

- 研究者/人間として尊重してくれた、大切にしてくれた、親身になってくれた、という回答が多数
- 熱意をもって丁寧に指導してくれた、という回答も同様に多数
- 若手にも責任をもたせ、プロジェクトマネジメントなどの重要な仕事を経験する機会を提供してくれた、という回答も目立った。

ご自身の現在の/過去の指導者について、反面教師とすべきエピソードがあれば教えてください。

- ハラスメントや研究倫理などに関連するエピソードが見受けられ、まだ改善の余地があると考えられた。
- 指導者が多忙すぎる、というエピソードも複数あった。

過去/現在の経験を踏まえて、ご自身が将来、疫学を指導する立場になったとき(教員・研究者・実務者問わず)、どのようなことを重視したいと考えますか？

- コミュニケーションを重視する・相手を尊重する姿勢を持ちたい、という回答が多数
- 若手の成長・モチベーションの向上を重視したい、したいという回答も多数
- 自分自身が研究者として研鑽を続けたい、十分な資金やリソースを提供したいという回答も目立った

若手研究者として成長するために、どのような環境が特に重要だと思いますか？

- 下記の4要素の回答が大部分を占めた。指導者として優れているとともに、若手がメンターとなれるような環境を構築したり、経済的な安定や十分な研究リソースなどの環境を整えられることが重要と考えられている。
- 優れた指導者
- 若手のメンター
- 経済的な安定・安定したポスト（長期の雇用）
- 十分な研究リソース

より優れた疫学研究の指導者を育成するために、どのようなシステムの構築や改善が必要だと考えますか？

- 指導を受ける研究室間の流動性を高めて、複数の指導者の指導を受けたり、複数の研究室を経験できるなどのシステムの提案が多かった。また、指導者間のネットワーキングを促進すべきという提案も目立った。
- 雇用・経済的な安定が重要という声も多かった。
- 指導者の質の担保、研究の経験を確保する必要性についても言及されていた。

若手疫学研究者の考える指導者像：まとめ

- 若手疫学研究者の考える指導者像は下記のように集約できると考えられた。
 - 若手を人間/研究者として尊重できる高い人格を持つ
 - 不正・ハラスメント等を行わず、心理的安全性を担保できる
 - 若手の成長を重視し、研究に対するモチベーションを高めることができる
 - 高い研究スキルを持つとともに、適切なコミュニケーション能力がある
 - 丁寧な指導を行うための時間を確保できる
 - 論文執筆指導などの研究スキルに加え、研究者としてのあり方等、不定形なスキルを伝えられる
 - 研究プロジェクトに対して一定の裁量を与え、独立した研究者になるための経験を積ませられる
- 指導者に加えて、指導環境も重要であり、若手のメンターの存在や、経済的な安定・ポストの安定、十分な研究リソースを特に重視していた。
- 上記の理想を実現するためには、ひとりひとりの努力では不可能な面も多い。疫学研究者が改めて理想的な指導者像を定義し、その実現に向けての研鑽やネットワークの強化、構造的な改善も必要だと考えられた。

謝辞

- 多数の忌憚のない回答をいただいた若手疫学研究者の方々と、アンケートおよび本発表の作成にあたって多くの議論・アドバイスをいただいた「疫学の未来を語る若手の会」世話人のみなさまに感謝申し上げます。